食と農と村を考える情報誌

FURUSATO YUME TOYAMA

ふるさと夢とやま

NO.47

March 2026

地域資源Re活用の取り組み紹介❶
地域の感動を消費者へ
食を通じた農業・食文化の発信拠点に
NOROSHI FARM

ふるさと保全活動の紹介❶
自然と文化が共存する“ほどよい田舎”を目指して
【氷見市速川地区】

ふるさと保全活動の紹介❷
8つの集落が連携し進める保全活動
【入善町青木地区】

地域資源Re活用の取り組み紹介❷
ぶどうの魅力を伝えたい！
他業種から転身！ 若き園主の挑戦
イノハラぶどう園

チャレンジ支援事業の紹介
「限界集落からの脱却」
4軒8人が取り組むチャレンジ

カモ親子の農村日記 土地改良施設の紹介
婦負の野を潤す 井田川合口地区

トピック
週末とやま農村Life
生活価値体験ツアー in 富山市山田谷
みんなで農作業の日 in 五箇山
第15回 とやまの農山村写真展

新しい風、富山の農村を彩る。

地域の感動を消費者へ
食を通じた農業・食文化の発信拠点に
【NOROSHI FARM】

『NOROSHI FARM』は、魚津市松倉地域で若手生産者が中心となって地域とともに米づくりを行うお米農家です。環境と人にやさしい農法で水稲を栽培しています。2018年ころから、加工部門の代表である稗苗史絵さんが中心となり、自社で生産する「お米」と「地域の食材」を使ったこだわりの商品を製造・販売しています。新商品の開発や加工室の整備には、県の「農村女性起業チャレンジ事業」や「農村女性先進モデル企業育成事業」を活用されました。

『NOROSHI FARM』加工部門のみなさん

おやきなどのキッチンカー販売

教えて、稗苗さん！

『NOROSHI FARM』のコンセプトは？

掲げるコンセプトは「農村が100年続くために」。松倉地域は、古くから受け継がれるすばらしい自然環境や食文化があります。これらを次世代に残していくために、地域と消費者のみなさんをつなぐ窓口となる店舗を目指しています。ご来店くださるお客様に地域や農業を知ってもらうため、日々、発信の方法も模索しています！

商品開発に取り組んだきっかけは？

最初は、お米だけを販売していましたが、普段食べているお米から私たちのお米に買い換えてもらうのはなかなか難しい。そこで、私たちのお米の魅力をまず食べて知ってもらえるよう、加工品開発に取り組みました。もともと地域の先輩方がおはぎ等をつくっていたこともあり、加工への興味もあったんです。前職が保健師だったこともあり、「米×健康×地域」をテーマに地域のさつまいもと自社米粉を使った「さつまいもおやき」を最初に開発。おかげさまで評判も良く、お客様が産地に関心を注いでくださったことを実感できました。

『NOROSHI FARM』が生産・販売するお米

取り組みを進めるなかで大変なことはありましたか？

おいしいものを作るにはどうしても手間暇が必要で、人手やコストがかかります。限られたものとおいしさの追求、その兼ね合いがなかなか大変です。

取り組んで良かったことはありますか？

松倉地域の自然環境や食文化に対する感動をお客様と分かち合えること。地域の農業・食文化を通して地域の方とのつながりを深められていることがうれしいです！

今後の展望や夢はありますか？

まずは、お客様に私たちの農業や地域について知ってもらえる店舗づくりやSNS発信、地域に足を運んでもらえるような企画を立てたいです。そしていつか、この地域を世界から注目される農村にしたいです。

読者に一言お願いします。

若者たちが地域の方と一緒に棚田を守るリアルな実状をぜひ見に来ていただきたいです。棚田の原風景や農村の人々の生き方には揺るがない強さがあります。忙しさや便利さに追われる現代だからこそ、里山にはこれからの時代を生きるヒントがあると思っています。

NOROSHI FARM
（加工部門代表者　稗苗 史絵）

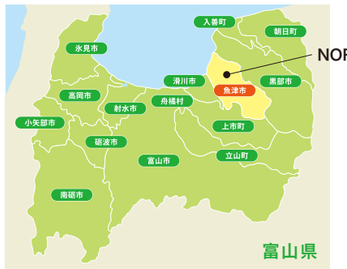
富山県魚津市観音堂1712　TEL.0765-77-0004
営業時間：9:00～14:00（おにぎりのみLO13:30）
定休日：木・金曜　駐車場：10台
販売場所：直売所、各種イベント、ネットショップ
E-mail：info@noroshi-farm.com
HP：noroshi-farm.com
Instagram：@noroshi_farm、@noroshi_farm_shop、@onigii_ri

HP　Instagram @noroshi_farm　Instagram @noroshi_farm_shop　Instagram @onigii_ri　LINE

■おにぎーり
「コシヒカリ」「てんたかく」「富富富」「ミルキークイーン」等のブレンド米を使用。お米の良さを最大限引き出せるよう、販売する季節や、具材にあわせてブレンドするお米の種類や割合を変えるこだわり。栄養豊富な胚芽を残した8分づき米や地域素材を使った酵素玄米にも変更可能で、様々な味を楽しめる。

■おやき
生地は国産小麦と自社米粉、天然酵母を使用。薄皮もちもちで、地域の野菜がたっぷり入っている。

■弁当
自社のお米と地域の食材をふんだんに使用した日替わり弁当。四季折々の食材を楽しめる。



CHECK!!
■農村女性起業チャレンジ事業（～R7）
■農村女性先進モデル企業育成事業（～R6）

▶ **令和8年度から新たな事業になります。**

地域資源Re活用付加価値創出事業（R8～）
農林漁業者による地域資源を活用した新たな商品・サービス開発等、付加価値創出に必要な経費を支援する事業。

お問合せ　富山県農林水産部農村振興課 農村活性化係　TEL：076-444-3381

『早借舟山公園』の散策ツアーにて「令和の鐘」を訪問

ふるさとウォッチング　ふるさと保全活動の紹介❶

自然と文化が共存する“ほどよい田舎”を目指して

地域の挑戦

【氷見市速川地区】

氷見市西部に位置する9集落から成る速川地区。豊かな自然や伝統文化に加え、万葉集にゆかりのある地として大伴家持が詠んだとされる句の歌碑が『早借舟山公園』に建てられているなど、歴史財産を尊重した地域として約900人が在住しています。近年『速川地区まちづくり協議会』を設立し、地域一体となって様々な活動に取り組んでいます。

これまでの歩み

かつて、速川地区は能登と越中を結ぶ交通の要所として栄えた土地でしたが、早い段階から少子高齢化による人口減少や担い手不足が進んでいました。このような状況を打開すべく、地域おこし協力隊の受け入れや、地域の新たな交流拠点施設として旧速川小学校校舎を利活用した速川公民館を設立。そこで、ユリを鑑賞しながら音楽演奏等を楽しむ「百合（ユリ）と音楽の鑑賞会」を開催するなど、住民が主体となって地域の活性化のために活動してきました。そして近年では『速川地区まちづくり協議会』を設立し、最適土地利用総合対策事業や農村RMOモデル形成支援事業に取り組むことで、これまで“誰かの頭のなかにはあったけど実現が難しかった取り組み”をスモールサイズで試験的に実施し、これからの速川が目指す“ほどよい田舎”の実現に向けて、その可能性を追求しています。

鑑賞会でお披露目されたユリの花々

7月開催の「百合（ユリ）と音楽の鑑賞会」で、よさこいソーラン演舞を披露

速川公民館にある万葉集の研究で知られる中西進先生の資料室

旧速川小学校の体育館を出店スペースに活用

「とりあえずやってみる!!」の精神

「とりあえずやってみる!!」。この言葉は『速川地区まちづくり協議会』にこそふさわしいと思えるほど、構成員の方々はチャレンジ精神にあふれています。「ヒミ里山マルシェ」の開催はその最たる例です。同イベントは、速川公民館の施設・敷地を最大限活用してキッチンカーやお菓子、ハンドメイドなど約40店舗が出店。本格的なマルシェの開催が初めてだったにもかかわらず、地域内外から約1000人を集客しました。また、地区内の荒廃農地を観光農園『フローリアひなた』としてリノベーションし、シャクヤクやラベンダーなど色鮮やかな花々を植栽し、地域の新たな憩いの場として昇華させました。

速川公民館前にはキッチンカーも出店

地域の強みを生かした取り組みも実施

これまでにない試みを行う一方で、『早借舟山公園』を散策し、その後『里山工房FICO』でドリンクやスイーツを楽しむ、といった速川地区内をめぐるツアーも実施。万葉集ゆかりの地の誇りを生かした試みも行われています。地域に根付く伝統文化を尊重しながら、時に大胆に新たな事業に挑戦して、より良い地域づくりを目指すのが速川地区に住む方々の強みです。

【参考】里山工房FICO
令和2年オープンのスイーツ店。地元食材を生かしたお菓子を販売しています。「ふるさと夢とやま」46号では、6次産業化に取り組む姿を詳しく紹介しています。

『フローリアひなた』で咲き誇るシャクヤク

同協議会の手づくりで特製看板も設置!!

これからの課題

『速川地区まちづくり協議会』では最適土地利用総合対策事業が令和8年度、農村RMOモデル形成支援事業が令和7年度で終わりを迎え、交付金がない状態での自走期間に入ります。事業実施期間中に取り組んだ実証事業のなかから、持続可能な取り組みを見極め、活動継続に必要な財源や人材を確保することが重要です。速川地区が今後も暮らしやすい地域としてあり続けるために、協議会では引き続き自然と文化が共存する“ほどよい田舎”を目指して活動を進めていきます。

地域PRのために作成した小冊子「ほどよい田舎 はやかわの暮らし」

「ヒミ里山マルシェ」の開催を前に円陣を組む協議会の方々

水路溝畔の草刈り活動

ふるさとウォッチング ふるさと保全活動の紹介❷

8つの集落が連携し進める保全活動

老若男女、地域のみんなが参加するむらづくり

【入善町青木地区】

用水路法面を利用した芝桜通り

秋祭りに青木地区の子どもたちが参加

転落危険箇所に鉄筋網を設置

黒部川扇状地のほぼ中央に位置する青木地区は、清流・黒部川に潤う水稲を中心とした農業で人々が暮らしてきた地域です。「多面的機能支払交付金」を活用して、共同活動に取り組んでいる「青木地区活動組織」の活動を紹介します。

広域化の成果

8集落約430世帯から成る青木地区活動組織の活動範囲は、農地225・3ヘクタール、農道14キロ、水路25キロ。入善町では一番大きな活動組織です。環境保全対象範囲が多いと問題や悩みも増えますが、構成員が多くなったことで、いろいろな職業や経験を持つ方も多くなり、どんどん斬新なアイデアも出てくるようになりました。結果的に、多数の集落を集めて1組織とする広域化を進めたことで、「役員のなり手がいないことで活動が継続できない」という人材不足の問題の解消にもなり、組織づくり・役割分担がうまく運びました。

複数のツールを使った情報共有

「緩やかな連携による、無理のない持続可能な活動の実施」「結ネットの活用」「女性も若者も参加する、みんなのむらづくり」をスローガンに掲げ、同組織は効率的な活動実施や地域住民への認知度向上を図っています。女性や子ども、転入者も気軽に参加できる景観づくりの活動は、地区の風土を知り、仲間づくりや意識醸成に貢献しています。そのような活動を広く知ってもらうために、広報誌の全戸配布や電子回覧板アプリ『結ネット』での案内、ホームページでの情報共有に力を入れています。『結ネット』は、青木地区が運営するコミュニティ・パートナーシップ協議会で活用が始まっており、アプリで情報発信することで、活動参加者への情報伝達が効率的になりました。これにより構成員間の連携ミスが減少し、構成員以外の非農家や若者の共同活動に対する認知度向上などの効果があります。

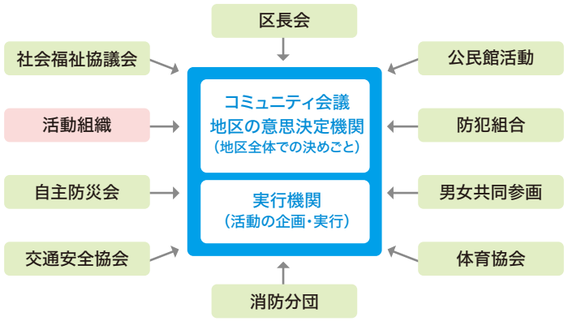
年間活動計画の立案

また同組織は、PDCAを回すことを大切にしており、次年度年間計画をつくる際には、各集落からの要望を取りまとめ、役員自ら足を運んで現地を確認しています。予算的な制約もあり、「やりたいこと」と「できること」にギャップが生じることもありますが、しっかりとコミュニケーションをとりながら対象地域が納得して活動を進めることを大事にしています。

自分たちの手で守っていく

この地域に限らず、以前は各農地の地権者が自ら稲作を行い、維持管理も行っていました。しかし、現在では農業の担い手がおらず、自分の農地を大規模農家や地域の営農組合に委託している人がほとんどです。同組織では、「多面的機能支払交付金」（※）を活用して「地域が共同して地域資源の保全活動を行い、そしてみんなで参加する、みんなの地域づくり」をこれからも継続し、地域を守っていきたいと考えています。

青木地区コミュニティ・パートナーシップ協議会　相関図



地域住民一丸となっての植栽活動（景観づくりの活動）

地域をみんなで回って点検・注意喚起

水路へのゴミ捨て防止啓蒙活動

国道8号沿線のゴミ拾い

用語解説

※ 多面的機能支払交付金

農業・農村の有する多面的機能（国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成等）の維持・発揮を図るため、農業用水路や農道等の適切な保全管理（農地法面の草刈り、水路の泥上げ、水路等補修更新）を支援するための交付金。

交付金について YouTube動画で分かりやすく解説しています。

地域資源Re活用の取り組み紹介❷

ぶどうの魅力を伝えたい！ 若き園主の挑戦【イノハラぶどう園】

他業種から転身！

園主・猪原さんは、2023年4月にぶどう農家として就農。きっかけは、金融機関で働いていた当時、砺波市のぶどう園で食べた「クイーンニーナ」のおいしさに衝撃を受けたことです。ぶどうは加工することでおいしさの表情を変えることや、品種ごとの個性を知ってもらうツールになると考え、令和6年度に県の「6次産業化チャレンジ支援事業」を活用。加工品の商品開発に取り組みました。

『イノハラぶどう園』のコンセプトは？

「Choice」というワードをコンセプトにしています。

ぶどうは品種が多く、それぞれ違った個性があります。そのなかから"選ぶ"楽しさを感じてほしいという思いを込めています。現在15品種を栽培中で、品種は随時更新していきます。

商品開発に取り組んだ理由は？

ぶどうのおいしさをいろいろな形で楽しんでもらうためです。例えば、ジュースにすると、実も皮も丸ごと使うので、そのまま食べるよりも濃密です。

様々な品種のぶどうが店頭に並ぶ

また、ぶどうは熟すタイミングが違うので、加工品にすることで販売時期をずらし、おいしい状態のぶどうをお届けできると思いました。

加工や販売の技術はどのように学びましたか？

多くは独学です。地元の図書館に通い、本を読みあさって勉強しました。

取り組みを進めるなかで大変なことはありましたか？

ずばり、労力がかかることです。生産だけでなく、加工と販売も100%の力量でやる必要があります。手間・時間・強い意志が必要なので、覚悟をもって取り組んでいます。

やって良かったことはありますか？

お客様からの「おいしい！」という声がうれしいです。加工品は子どもたちに大人気で、反応を見るのが楽しいです。また、加工品があることで各種メディアに取り上げていただき、広がりができたと感じています。

今後の夢はありますか？

富山県民に、ぶどうを品種で語れるようになってほしいです。そのために、生産量を増やしてぶどうをもっと広めていきたいです。

読者に一言お願いします。

『イノハラぶどう園』では、多種多様なぶどうを楽しめます。レッツ、Choice！

おすすめメニュー

濃しぼりジュース（右）
ぶどう以外は一切入れない、まさに飲むぶどう。品種ごとの違いをダイレクトに味わえる。

皮ごとぶどうジェラート（左）
凍らせた巨峰・牛乳・ヨーグルトで、園主が心を込めて製造。

キッチントレーラーで販売！

イノハラぶどう園
（園主　猪原 建実）

富山県砺波市鷹栖947　TEL.090-6276-4653
営業時間／定休日：
最新情報はHPまたはInstagramで発信しています
駐車場：20台
販売場所：直売所、道の駅となみ野の里、各種イベントほか
HP：inobudou.com、Instagram：@inohara_budou

HP　Instagram

CHECK!!
■6次産業化チャレンジ支援事業（～R7）

令和8年度から新たな事業になります。

地域資源Re活用付加価値創出事業（R8～）
農林漁業者による地域資源を活用した新たな商品・サービス開発等、付加価値創出に必要な経費を支援する事業。

お問合せ　富山県農林水産部農村振興課 農村活性化係　TEL:076-444-3381

チャレンジ支援事業の紹介

「限界集落からの脱却」4軒8人が取り組むチャレンジ

～千客万来の限界集落を目指して～

春の水路清掃作業（R6）に集まった支援隊と協力者

小矢部川上流にある南砺市小院瀬見（こいんぜみ）は、石川との県境手前に東西約7キロに広がる集落。現在4軒8人が暮らし、その半数は70歳以上、また、4軒中3軒6人は移住者です。山あいの小さな集落が住民全員で挑む取り組みを紹介します。

『Casa』が引き出す限界集落の魅力

集落の移住者たちが、循環型農村づくりを目指して『Casa』を立ち上げたのは10年前。地域の営みや文化、伝承を次世代に伝える使命を掲げ、未来に続いていく"限界集落"を目指しています。かつて、この地域を支えた麻布織りの復刻と継承に取り組む拠点『越中福光麻布ギャラリー』や、古民家でそれらの織物体験ができたり宿泊できる『ゲストハウス絲（いと）』、地域のすばらしさを発信する『Casa出版』などを運営するなか、自然との共生を求めて小院瀬見を訪れる人々と交流を深めていきました。その甲斐もあり、小院瀬見では、農作業などで頻繁に行き来する関係人口が増え、居住にこだわらない新たな集落形態の構築が少しずつ進んでいます。『Casa』を中心に集落全体が、人が集い、賑わいと活気のある"持続可能な限界集落"に向け奮励してきました。

2013年ころからは、小院瀬見のほか7つの集落がある西太美地区で結成された「地域おこし支援隊」（※）に助けられながら、年に4回の清掃と草刈りにより用水路の維持管理をしてきました。最近は支援隊メンバーの高齢化で、年2回の支援となりましたが、農作業に通うグループや、県の農業・農村サポーター制度のボランティアの方々に助けられています。

地区外からの協力

『Casa』が誕生した10年前、集落では田んぼをする農家が途絶えようとしていました。当時、メンバーの一人が米の自然栽培に打ち込んでいましたが、偶然、同じころに同じ志しで米づくりに取り組む『なべちゃん農場！』が小院瀬見で稲作を始めました。この頼もしい隣接地域からの稲作農家と『Casa』はすぐに意気投合。お互いを応援しながら、『なべちゃん農場！』の指導下で『Casa』が地域の子どもたちや学生を対象に自然栽培農業の稲作体験の企画をスタートさせました。現在は『なべちゃん農場！』で技術を学んだ『Honey&Cotton』が引き続き自然栽培の米づくりに通って来てくれています。

一昨年には、荒廃農地となった棚田を再び田んぼに戻し、昔ながらの手作業での米づくりを行う『小院瀬見くらぶ』も誕生しました。近年は、これらの関係者が水路や集落の維持管理に参加してくれるようになりました。小院瀬見は「自然栽培の村」として、自然と共生する持続可能な"農"を目指す人々と手を携えた農村の再構築を村の柱としています。

来訪者との交流の場づくり

集落の活動は、農地の維持管理にとどまらず多岐に渡ります。10年以上使われていなかった公民館（旧小院瀬見分校跡）を、様々な人の交流の場や活動の拠点にしようと、一昨年春から改装に着手しました。住民と集落に通う人たちが協力し合いながら、不要なものを処分したり、壊れているところを補修したりと少しずつ作業を進め、令和7年4月20日には新生・小院瀬見公民館のお披露目会が開催されました。会には集落を出た人のほかにも、西太美全地区、以前から自治会名簿に記名がある関係者などにも案内し、集落住民と稲作グループのメンバーとでもてなしました。交流の場ができたことで、活動後に立ち寄っていろいろな話をすることができ、会話から新しいアイデアが生まれているようです。

公民館での歓談の様子

お披露目会の様子

お披露目会チラシ

活動の報告・情報発信【小院瀬見新聞】

「小院瀬見新聞」創刊号

小院瀬見集落の現状や活動、ホットな話題は、地域新聞として情報発信されています。令和6年6月、同集落で米づくりに励む元新聞記者・中島さんを編集長に迎え、集落は「小院瀬見新聞」を創刊させました。毎月一回発行されているこの新聞は、県の農山漁村総合サイト「むらまち交流ラボとやま」の小院瀬見公民館のページからもご覧いただけます。昨年から希望者に毎月郵送し、購読料として募った協力金を公民館の維持や集落の振興に役立てています。わずか4軒8人の集落であっても、豊かな自然と人同士のつながりを資源として活かすことで、小院瀬見には様々な人が行き交うようになりました。今後は住民と集落に関わる人々が一堂に会して交流できる機会をつくっていきたいと考えています。

住民数から"限界集落"と言われる小院瀬見。人手不足に悩まされつつも、集落外の人々が足を運びたくなる"心の故郷"になれるような、新しい集落のカタチづくりにチャレンジしています。南砺市の端っこから、10年後、20年後の明るい未来を夢見ています。

再生された棚田で田植えの準備

再生された棚田

小院瀬見集落

『小院瀬見新聞社』編集長の中島健二さん

小院瀬見新聞は、
年2,000円の協力金で毎月郵送しています。

お申し込みは
〒939-1764　南砺市吉見70番地
小院瀬見新聞社　担当 中島 まで

用語解説

※ 地域おこし支援隊
西太美地区の自治会（＝西太美地域づくり協議会）で結成されている組織。地域づくり協議会は「小規模多機能自治」として運営されている組織で南砺市内に31の協議会がある。支援隊の活動内容は、道路の除草や水路清掃、除雪など。都市部から地方に移り住み、地域の課題解決や活性化に取り組みながら、その地域への定住・定着を図る「地域おこし協力隊」とは趣旨が異なる組織。

カモ親子の農村日記

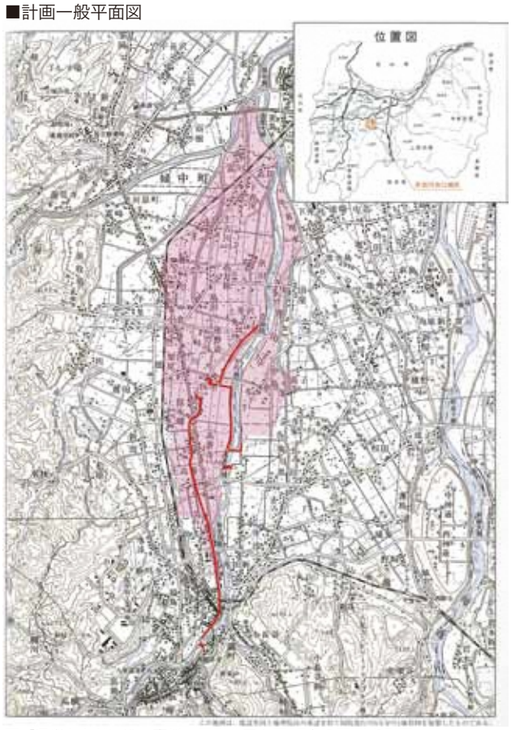
土地改良施設の紹介

婦負の野を潤す 井田川合口地区

富山県の中央部・婦負の野では、一級河川・井田川が南北に流下します。その中流域で、県営かんがい排水事業井田川合口地区（昭和54年度から平成8年度）によって、井田川合口頭首工と石戸取水工が造成され、また、6つの用水路の全面改修が行われました。井田川から取水した水は、これらの施設を介し、婦負の野における592ヘクタールの農地を潤しています。取水工造成前から現在に至るまでの努力の一端にふれます。

井田川合口頭首工

■計画一般平面図



図：「県営かんがい排水事業井田川合口地区 婦負の野」より引用
（井田川沿岸土地改良区発行）

繰り返す洪水

古くから、井田川の豊かな水の恵みにより米作が行われたこの地域ですが、洪水に見舞われることが数多くあったようです。1406年（応永13年）から1934年（昭和9年）にかけては、92回の洪水記録が残されています。1696年（元禄9年）・1789年（寛政元年）には洪水により、石戸用水の取り入れが流失したとの記録もあるそうです。

数々の被災のなかでも、1914年（大正3年）に発生した洪水では、田畑が一夜にして土砂に覆われ、家屋や橋などへの被害はとりわけ大きかったようです。

事業実施の背景

工事が行われる以前、この地域では井田川に設けられた8ヵ所の取り入れ口により農業用水を得て、耕作を続けてきました。これらの取り入れ口には、古くは江戸時代中期に築造されたものも含まれます。

それぞれの取り入れ口においては、老朽化の進行や井田川のたび重なる洪水による河床の低下のため、取水するにも苦労が続きました。また、取り入れた水を流す用水路においても、漏水や崩壊が至るところで発生していました。この状況を脱しようと多くの労力と費用が投入されてきましたが、克服は困難な状態でした。このため、受益地全体からの強い要望により、取り入れ口の合口化（2ヵ所に統合）と用水路の全面改修への機運が高まりました。

困難を乗り越える

井田川合口地区の事業採択に向けては、取り入れ口の統合に取り組むこととなりましたが、これには従来から利用していた取水施設の廃止が伴います。受益者には、事業の必要性を認めつつも、水利用の従来の利便性が失われるのではないかとの葛藤もありました。その思いもあったなか、取り入れ口は石戸取水工と井田川合口頭首工の2ヵ所に統合することが決められました。

また、安定的な取水や維持管理の軽減のために取水工の位置をどこにするのか、合口水門の型式・構造をどういったものにするか等について、河川管理者や土地改良区など関係機関の間で協議調整を繰り返し、かなりの期間を費やしました。井田川合口地区は、新たな水管理に移行する意思と、それを実現するための努力により、事業採択されました。

未来へ向けて

県営かんがい排水事業井田川合口地区では、18年の歳月をかけて、井田川合口頭首工・石戸取水工の新設と用水路6路線（6945m）の全面改修を行いました。

日常の維持管理を行いながら、洪水のたびに苦労を重ねた年月を含め、工事完成までの間に、地域の農家や関係者は様々な困難を乗り越えてきました。そして現在も、大切な施設を守り、未来に引き継いでいくためのさらなる努力が積み重ねられています。

管理棟横の記念碑（富山市八尾町）

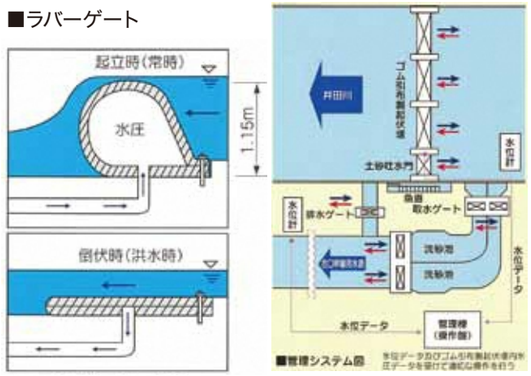
主な施設

井田川合口地区では、それまでの8ヵ所からの取水を井田川合口頭首工と石戸取水工の2ヵ所に統合し、老朽化した水路は鉄筋コンクリートフリュームに改修されました。

井田川合口頭首工

ゴム引布製起伏ゲート（ラバーゲート）を採用しています。本頭首工では水で膨張させる形式になっています。洪水時には自動的に膨張させていた水が抜けゲートが倒伏します。

■ラバーゲート



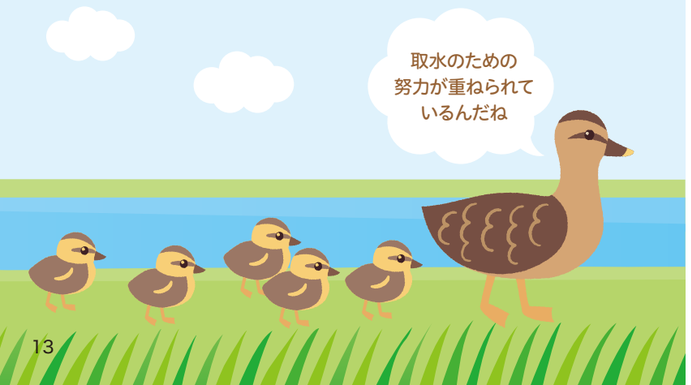
図：「わたしたち井田川沿岸探検隊」より引用（井田川沿岸土地改良区発行）

石戸用水取水工

河床の洗堀を防ぐ床止めを施工し、自然取水しています。取水工近くの水路の一部はせせらぎ水路となっています。

石戸取水工

石戸用水せせらぎ水路



週末はとやまで農村Lifeを満喫しませんか？

～農村関係人口の拡大・深化を目指して～

週末とやま農村Life

富山県の農村地域には、受け継いで伝承していきたい魅力的な地域資源が多く存在しています。富山県では、こうした魅力ある地域資源を感じながら、農作業、農村暮らし、伝統文化の体験や地域の方々と交流することができる「週末とやま農村Life」を開催しています。

令和7年度「週末とやま農村Life」南砺ラボ参加者

令和8年度
「週末とやま農村Life」
参加者募集！

令和8年度も「週末とやま農村Life」を開催します！
次はあなたが富山で農村Lifeを体感してみませんか？

1 南砺ラボ

開催日：6月12日（金）～14日（日）
場　所：南砺市井波・福光地区
- 散居村を望む棚田ビオトープづくり
- 植物原料の繊維から糸をつくり、はた織り体験
- 特産里芋植付け体験

2 笹川ラボ

開催日：6月20日（土）～21日（日）
場　所：朝日町笹川地区
- ホタル観察会
- ヒスイ探し
- 朝日名物「たら汁」を味わう

3 氷見速川ラボ

開催日：9月5日（土）～6日（日）
場　所：氷見市速川地区
- 大伴家持ゆかりの地をめぐる
- 地元獅子舞の練習風景見学＆体験
- 魚釣り・魚さばき体験

4 魚津片貝ラボ

開催日：9月12日（土）～13日（日）
場　所：魚津市片貝地区
- 片貝水循環遺産めぐり
- ぶどう収穫体験
- ワイナリー見学

5 立山ラボ

開催日：10月2日（金）～4日（日）
場　所：立山町
- 越中瀬戸焼作家による陶芸体験
- 称名滝見学
- 農業体験

6 国吉ラボ

開催日：10月24日（土）～25日（日）
場　所：高岡市国吉地区
- 乳牛に餌やり・搾乳体験
- 国吉りんご収穫体験
- ランプシェードづくり

7 やまだ村ラボ

開催日：11月6日（金）～8日（日）
場　所：富山市山田地区
- 野菜収穫・出荷体験　●干し柿づくり体験
- 牛岳登山・散策　●そば打ち体験

8 黒部ふせんたんラボ

開催日：2027年1月30日（土）～31日（日）
場　所：黒部市東布施地区
- 棚田スノーシューハイキング
- 押し寿司づくりと黒部海鮮・里山の幸体験
- 漁村“生地”散策

9 利賀村ラボ

開催日：2027年2月20日（土）～21日（日）
場　所：南砺市利賀村地区
- 雪中野菜収穫体験
- わら細工づくり
- 伝統芸能体験

※写真はイメージです。

参加費

1泊2日	大人 18,000円	小学生以下	9,000円
2泊3日	大人 25,000円	小学生以下	12,500円

※やむを得ない事情により中止または延期となる場合があります。※未就学児は無料
※生後4ヵ月～就学前のお子様を対象に臨時保育室をご利用いただけます。
（ただし、利賀村ラボを除く）

お申込み・お問合せ

NPO法人グリーンツーリズムとやま
TEL：076-482-3161　FAX：076-482-3635
E-mail：info@gt-toyama.net

お申込みはこちらから▶

富山県農林水産部農村振興課 中山間農業振興係　TEL：076-444-9011

農村関係人口創出に向けた新たな取り組み

生活価値体験ツアー in 富山市山田谷

令和7年10月25日（土）～26日（日）に富山市の山田谷地域で「生活価値体験ツアー」が開催されました。本ツアーは、地域課題に「生活価値」を見出し、農村振興や農村関係人口創出につながる新たな取り組みとして期待されています。

1 柿収穫を通じて地域の課題にふれる

串柿づくりが盛んだったころ、柿は山田谷地域の産業を支える重要な存在でした。しかし、近年は柿の木が獣害を誘発する一因に。参加者は、柿の収穫作業を行いながら地域が抱える現状を実感したのでした。

2 干し柿づくりで感じる地域の伝統

収穫した柿は干し柿づくりの工程へ。皮むき器を使った伝統的な加工方法を体験し、地域の伝統技術にふれました。地域の方々の熟練の技に、参加者が思わず歓声をあげる場面も。

3 地元の恵みを囲んだ地域との交流

温泉で汗を流した後は、地元の食材を使った料理を堪能。地元野菜を使用した料理はもちろん、地元の猟師が捕獲した熊鍋など、“地元の恵み”が勢揃い。食卓を囲みながら、参加者が地域の方々と農村の生活等について語り合い、交流を深めました。

4 地域でのリアルな体験

2日目には獣害用の箱罠見学や電気柵の撤収作業を実施しました。参加者は実際の現場に立ち、農村が直面する獣害とその対策を具体的に学びました。また、黒豆の収穫体験も行い、普段味わうことのできない、自然との共存をリアルに体験しました。

農村関係人口創出に向けて

ツアーを通じて、農村地域の魅力と課題の両方を実感した参加者。「農村の現状を知り、新たな視点が得られた」「地域の暮らしをもっと知りたい」という声があった一方、山田谷地域の方々からは、「ツアーをまたやりたい」「地域のファンクラブを作り、関係人口を広げたい」と感想をいただき、農村関係人口創出の大きなきっかけとなりました。

“収穫×交流”で掘り起こす地域の魅力

みんなで農作業の日 in 五箇山

令和7年11月「みんなで農作業の日 in 五箇山」が開催され、赤かぶオーナーのみなさんが収穫作業に取り組みました。大きいものでソフトボールほどに育った赤かぶは、ほかの野菜より収穫しやすく、小学生でも簡単にスポッと抜くことができます。「どれが一番大きいかな？」と鮮やかな赤かぶを見比べながら、紅葉が深まった五箇山でお互いの会話も弾みました。

収穫の翌週には、料理体験イベントが開催されました。『マンテンホテル』で長年勤務された江向シェフ（現在は創作日本料理店『もくきんど』を経営）が講師を務め、創作赤かぶ料理の実演が行われました。赤かぶのステーキなど、家庭でも楽しめるメニューが紹介されました。赤かぶの収穫と料理体験を通して、楮地区の素朴な魅力を肌で感じました。

赤かぶのステーキのレシピ

材料
- 赤かぶ（直径8cm程度）……1個
- カットベーコン……30g
- 塩……適量
- コショウ……適量
- サラダ油……小さじ2（10cc）
- 無塩バター……45g
- 料理酒……小さじ4（20cc）
- 醤油……小さじ2（10cc）

手順
1. 赤かぶはよく洗い、葉を分けておく。
2. 皮つきのまま2cmの輪切りにし、塩を振り10分置く。
3. 葉を塩茹でし、水気を絞り5cm幅に切る。
4. 赤かぶの水分を拭き取る。
5. フライパンにサラダ油を敷き、赤かぶの片面に焼色をつける。
6. 焼色がついたらひっくり返し、バターと料理酒を加える。
7. 葉を加え、塩・コショウで味付けし、皿に盛り付ける。
8. ❼のフライパンでベーコンを炒め、バター・醤油を加える。
9. 赤かぶにのせ盛り付ける。

※赤かぶは食べやすくナイフでカットしてお召し上がりください。

もくきんど　食&ぎゃらりー
富山店：富山市田刈屋311-6／楮店：南砺市楮976　TEL：090-7744-0854（予約）　E-mail:emukai@pr.ctt.ne.jp
［営業時間］12:00～14:00、18:00～21:00（完全予約制）［営業日］木～土曜

第15回 とやまの農山村写真展【受賞作品紹介】

「とやまの農山村写真展」は、富山県の豊かな農山村風景を後世に守り伝えることを目的に開催。作品を応募される方はもちろん、写真展をご覧いただく方にとっても農山村の魅力を再発見する良い機会となっています。今回は185点（一般89作品、ジュニア96作品）の応募があり、そのなかから富山県知事賞（最優秀賞、優秀賞）、富山県土地改良事業団体連合会長賞（棚田賞）、およびとやま棚田ネットワーク会長賞（特別賞）を選定・表彰しましたので紹介します。

受賞作品は「とやま棚田ネットワーク」のホームページでご覧いただけます。

「とやま棚田ネットワーク」
ホームページはこちらから▶

一般部門　富山県知事賞　最優秀賞
アーア！ やっちゃった
南部勉（南砺市）

ジュニア部門　富山県知事賞　最優秀賞
青空と大切なお米
大塚晴菜（南砺市）

一般部門　富山県知事賞　優秀賞
月夜の四重奏
水野敬雄（立山町）

ジュニア部門　富山県知事賞　優秀賞
夕焼け色に染まる稲穂
石崎大輝（高岡市）

ジュニア部門　富山県知事賞　優秀賞
朝日と蓮の花
木下友希（高岡市）

富山県土地改良事業団体連合会長賞

棚田賞

一般部門　和泉知英子（氷見市）
ジュニア部門　舘川優衣（富山市）
酒井希彩（富山市）

とやま棚田ネットワーク会長賞

特別賞

一般部門　寺尾幹男（滋賀県草津市）／藤丸正義（富山市）／甲田恵津子（富山市）
黒田俊之（富山市）／五島はるみ（富山市）／大石和（富山市）
ジュニア部門　松井紗妃（立山町）／河田流我（高岡市）／渡邊宥大（高岡市）
梅田晴弘（高岡市）／竹橋七美（高岡市）／戸田智咲（富山市）

ご意見・ご要望について

本号に関するご意見、ご要望等をお寄せください。住所、氏名のご記入をお忘れなく。
個人情報については、ご意見・ご要望の内容確認以外に使用いたしません。

富山県農山漁村総合サイト「むらまち交流ラボとやま」の
ホームページ・各種SNSにて
県内の農山漁村地域の情報を掲載中！
ぜひご覧ください！

HP　LINE　Instagram　X

本号とバックナンバーは
富山県ホームページでもご覧になれます。

ふるさと夢とやま　検索

詳しくは
こちらから▶

富山県

「ふるさと夢とやま」47号　令和8年3月
発行元：富山県農林水産部農村振興課
〒930-0004　富山市桜橋通り5番13号　富山興銀ビル4階
TEL.076-444-3380　FAX.076-444-4427

この冊子は、富山県農村環境創造基金で発行されています。